

【短報】セボシヒメテントウの斑紋変異の一例

セボシヒメテントウ *Sasajiscymnus seboshii* (Ohta) は名が示すように上翅に大きなオレンジ紋を有することが特徴で、図鑑(佐々治, 1985)や採集記録(佐々木, 2011; 三宅, 2012; 今坂・三宅, 2014)にもそのような個体の図が示されているし、絵解き解説(日本環境動物昆虫学会編, 2009)にも大きな背星の紋が描かれている。

筆者が熊本県の狭い範囲で得たセボシヒメテントウの上翅の斑紋には背星には見えないような色彩の個体も含まれ、大きな変異が見られたので報告したい。

9exs., 熊本県八代市泉町白鳥山峰越, 19-20. X. 2016, 筆者採集。

車道に面する法面のクマザサを叩いて得られたが、100 m 程度の狭い範囲で得たもので、図に示すような斑紋の変異が見られた。

図1はオレンジ色の部分が縮小し、上翅端の狭い範囲と前胸背の両側にははっきりと、上翅中央には検鏡して分かる程度に狭くごく薄く見られる

のみ。図2-4は上翅中央のオレンジ紋がはっきりと現れ、前胸背と併せてオレンジ色部分が順次拡大し、さらに図5にいたっては黒色部分が上翅基縁付近にわずかに残っている程度までオレンジ紋が拡大している。

割合は図1が1/9, 図2が2/9, 図3が1/9, 図4が3/9, 図5が2/9と大差はなかった。母数を増やし出現の比率を安定させようと2017年5月17日に同所での採集を試みたが1頭も得られず、データの蓄積ができなかった。また、隣県の大分県久住山系黒岳男池付近のクマザサで2017年4月に得られた同種12頭の斑紋はいずれも図2-4の範疇で図1や図5のように両極端になる個体はなかった。

九州では本種はどちらかといえば稀種に属するようで記録はあまり見ない。今回は狭い同一の環境で得られ、大きさや体型、被毛の状態から図1や図5のような個体も同定できたが、それらを単独に得た場合には同定は容易ではない。城戸(2017)も記述しているように山地のササ類の葉上に集まるようなので採集場所が同定のヒントになる。

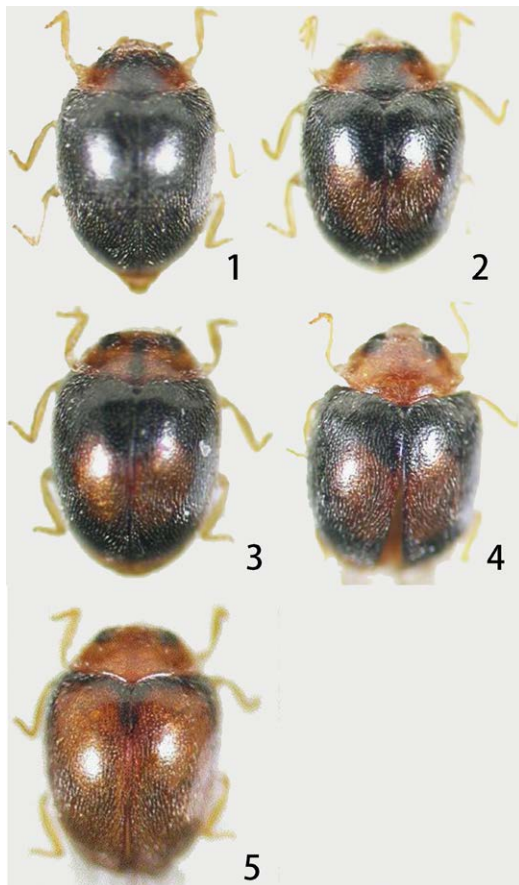


図1-5. セボシヒメテントウの斑紋変異。

引用文献

- 佐々治寛之, 1985. テントウムシ科. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編著, 原色日本甲虫図鑑(III). Pp. 245-270 (pls. 40-44). 保育社, 大阪.
- 佐々木茂美, 2011. 大分県西部地方の甲虫(2010). 二豊のむし, (49): 9-32
- 三宅 武, 2012. 秦野英徳氏が2011年に採集した希少昆虫. 二豊のむし, (50): 35-43.
- 今坂正一・三宅 武, 2014. 大分県で採集した興味深い甲虫(2011-2013). 二豊のむし, (52): 1-15.
- 日本環境動物昆虫学会編, 2009. テントウムシの調べ方. 148 pp., 文教出版, 大阪市.
- 城戸克弥, 2017. 福岡県のヒラタムシ上科. KORASANA, (86): 41-126.

(西田光康 843-0301 嬉野市嬉野町下宿甲 1752-2)

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針 00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他, 採集, 製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒142-0051

東京都品川区平塚2丁目5番8号

郵便振替 00130-4-21129

電話 (03) 5858-6401 (ムシは一番)

FAX (03) 3784-6464

(カタログ贈呈) (株) 志賀昆虫普及社